

(5) 水管理



【ポイント】

- 初期分けつを確保するため、**活着後の浅水管理を徹底する。**
- 無効分けつの抑制、根圏の発達促進、適正な葉色への誘導のため、**中干しは田植1か月後までに遅れないように確実に行う。**
- 適正粒数に誘導するため、**幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水を行う。**
- 稻体や根の健全化のため、幼穂形成期から**出穂期まで飽水管理**を行う。
- 稻体の活力を維持し、胴割米の発生を防ぐため、**出穂後20日間は湛水管理**とし、**刈取り5～7日前までは間断かん水**を行う。

①活着期

- ・田植後3日間程度はやや深水にして、活着を促進する。

②分けつ期

- ・活着後は浅水管理により水温の上昇に努め、下位の強勢分けつの発生を促進する。
- ・「富富富」の苗の草丈は、「コシヒカリ」に比べて短く、**深水の場合、苗が水没、徒長するとともに初期分けつの発生が抑制される**ので、代かき時に田面の均平に努めるとともに、初期の水管理には十分留意する。

深水で栽培した場合、「富富富」、「コシヒカリ」ともに茎数は少ない。
また、深水による茎数の減少程度は、「コシヒカリ」に比べて「富富富」で大きい。

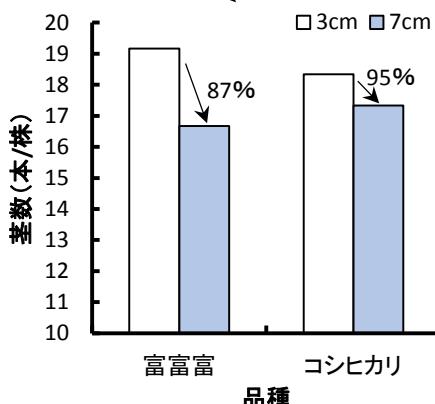


図 4-5-1 水深が茎数に及ぼす影響 (H30 農研)

注 1) ポット試験 移植後30日調査 (移植日 5/15)

注 2) 水深：移植～調査まで3または7cmを継続

注 3) 図中の矢印付近の数値：茎数の減少程度

水深スケール等を活用して、
浅水管理に努める。



写真 4-5-1 水深スケールを活用した水管理
(H30 現地)